

健康な地球に生きる健全な人間の姿を求める「岡田茂吉師」が提唱した「自然農法の原理」に基づき、「無施肥無農薬栽培」を通し、生産、流通、消費者がお互いの現場を理解し合える、安全で豊かな「食」の普及に取り組んでいます。

「おかげさま」のガイドライン「TOREK 自然農法 認定規格」

2月、TOREK 自然農法は、作物の生産方法と、加工品についてのガイドライン、「TOREK 自然農法認定規格」を発表しました。

この認定では、農地への無農薬・無施肥をベースとし、2種類の栽培基準が設けられます。

1つは、苗による肥料分の持ち込みを認めず、他の農法との境界に緩衝帯(かんしょうたい)(自然農法と他の農法の農地を分ける部分)を設ける「認証」、2つめは、暫定的に苗による肥料分の持ち込み、また緩衝帯の不設置を認めた、認証への移行期としての「推奨」です。加工品は、主原材料に「認証」生産物が使用、または原材料全てに認定生産物が使用されているものを「認証」加工品とし、原材料の一部に認定生産物が使用されている場合、「推奨」加工品となります。(詳しくは TOREK の HP で確認できます)

これによって、「自然農法」と、他の様々な「環境配慮型農法」との違いがはっきりしますし、より安心して、作物を購入し、人にも渡すことができるのではないかと思います。

また2月18日(日)には、「生産者消費者ミーティング」が行われました。生産者の今年の思いや現状、また頒布会スタッフや各行事の調理スタッフの要望などが発表され、希望に満ちた自然農法活動の、今年度の始まりとなったのではないのでしょうか。

2月20日(火)の自然農法勉強会では、生産、流通、消費すべてに、「おかげさま」の心がないと、一致団結した自然農法はできないこと、また自然農法は「長期的」に考えていくべきことを学びました。岡田茂吉師が自然農法を行ってから82年、多くの困難の中、知らせてくださったこと、それを受けた先人の努力の継続に感謝し、人の健康とともに、土、環境の清浄化をも心におき、より向上した自然農法活動に取り組んでいきたいと思いました。(編集部)

人生を変えた、ティーバッグ！

埼玉県 臨元哲男

私は自然農法の緑茶のティーバッグを職場で飲んでいました。

ある日、後輩の女性職員が市販の緑茶のティーバッグを飲んでいました。何の気なしに私の飲んでいる自然農法の緑茶のティーバッグを勧めると、後輩の女性職員は飲みながら仕事をし、午前の勤務が終わりました。

お昼休みになると、その女性職員が話しかけてきました。「この緑茶は何なんですか？ 飲んでいたら、背中や腰が温まってきました」。私は肥料も農薬も使ってない



認証

研修会に参加し、自然農法の原理を学ぶ
耕作地への農薬散布及び肥料分の持ち込みは一切禁止

- 1、生産者：
実施年数が3年以上、かつ管理している総耕作面積が10a以上。
- 2、土の清浄化の徹底：
・肥料分の持ち込みを避ける為、肥料を含む苗を使用できない。
・自家採種した種の使用を推奨するが、購入種の使用も可とする。
- 3、販路：
対面販売以外においても販売可能。
- 4、種の清浄化の徹底：
自家採種した場合、ラベルに記載可能。

推奨

- 1、生産者：
実施年数及び耕作面積の規定なし。
- 2、土の清浄化：
・実施田圃への肥料分の直接的な投入は禁止であるが、苗による持ち込みは可とする(育苗時に肥料使用と説明)。
・自家採種した種の使用を推奨するが、購入種の使用も可とする。
- 3、販路：
育苗時の肥料を説明するため対面販売を基本とする。
- 4、自家採種：
対面販売時に説明

緑茶であるということを説明しました。午後の勤務の前に、もう一つティーバッグをあげました。

午後の勤務が終わると、その職員がまた話しかけてきました。「この緑茶は何なんですか？ 午後も飲んでいたら、トイレに行く回数が頻繁になり、足の浮腫みが良くなりました！」と驚いていました。そこから話がふくらみ、彼女自身がここ数ヶ月、浮腫みなどで体調が悪く、仕事を辞めようと考えていましたが、自然農法の緑茶を飲み、浮腫みがすっきりして、体調が良くなったため、仕事をもう少し続けてみようと思います、と前向きな気持ちに変わったと話してくれました。

自然農法の緑茶を飲んだだけで、体調が良くなり、仕事を辞めることなく、彼女自身の人生を変えたのではないかと感じ、自然農法の素晴らしさを改めて感じました。多くの方々の口に自然農法の作物が届く機会を作れるよう、食を通じたお伝えを継続していきたいと思います。

2017 りんご収穫！中島農園

中島敬太郎さんが、りんご栽培を一部自然農法に切り替えて18年になります。当初、りんごの自然栽培は群馬の環境では不可能と言われていましたが、様々な困難を乗り越え、継続されている姿に頭の下がる思いです。昨年2017年も数々の壁がありました。

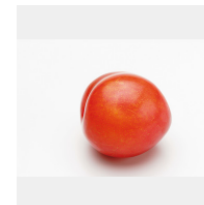
5月、有志の方々が集まり、中心花を残す花摘みの作業が行われました。木に腐乱病が少し出ているようですが、花は順調だったとのこと。その後、多く結実し、木に負担をかけないように、やや強く摘果し、約1000個のりんごに小袋をかけることができました。

しかし7月、雨が多く、紫斑病やモンパ病などの病気があり、さらに8~9月にかけ、日照不足、そして大雨、また10月には2回の台風がある中、斑点落葉などの病気が出てしまいました。思っていたより早くに落葉が進んでしまったので、「ふじ」などの遅い品種で実りが悪くなってしまっていました。



プラムの概念が変わるおいしさ 中島農園—プラムの郷—の「プラム」

集英社ハビブラニュース 5/22(月) 20:00配信



Web eclat

無肥料、無農薬、減農薬にこだわる農園で育てられる夏のプラム。その期間は限られているが、そのおいしさで大人気。

[この記事 Web eclat で読む](#)

無肥料、無農薬、減農薬にこだわる農園。主にりんご、野菜を手がけ、夏のプラムは完全無農薬、無肥料で育てている。短い時期のものだが、とにかく人気。「味も最高ですが、力強さを感じます」(群馬県コンシェルジュ 佐藤さん)。今までのプラムの概念が変わるおいしさ。ぜひ試してみてください。

お知らせ

- ★ 自然農法頒布会 2月27日(火)、3月10日(土) 三咲会場 10:00~14:00
- ★ 自然農法頒布会 3月19日(月) 鎌ヶ谷会場 11:00~15:00
- ★ ほっと緑市 3月25日(日) 赤羽公園 10:00~15:00

無施肥無農薬栽培物の販売予定

生産者の方々が直接販売されます。

3月3日 於：伊都能売会館

東京都八王子市長房町57 042-665-6369

- 市川生産グループ：ほうじ茶、ほうじ茶ティーバッグ
- きじま平自然農産：自然米、納豆、甘納豆、きな粉、米粉 ● 長柄山自然農園：卵、大根、ひき肉
- 菜園金野：サツマイモ、小松菜、干し芋
- 中島農園：長ネギ、ジャガイモ、梅干、自然のリンゴチップ
- ジョリフィユ：ひなまつりクッキー、新みかんジュースのゼリー、ブランガレット 他

お問い合わせ先：編集部 針貝 FAX：03-3369-3324 e-mail：naturefarming@torek.jp
TOREK活動のホームページもご覧ください。http://www.torek.jp